

# 安全マネジメント推進要綱

2023年度



両備ホールディングス株式会社  
東備バス株式会社

## ■はじめに

2023年度も「日本一安全な運輸企業」を目指した取組みを引き続き実施します。2009年2月に発せられた経営トップのコミットメントは、日本一安全な運輸企業を目指すとした大作戦を展開し、管理者・乗務担当社員・労使が一体となり、真のドライバー目線で指導・教育を確実に行う事により、社会やお客様に対し安全・快適な輸送サービスを提供します。

具体的には、SSPブラッシュアップ推進委員会での組織活動により、1人のリーダーが5人の指導を行い(チーム5制度)、全体のレベルアップを図ります。現場指導を中心とし、無事故模範ドライバーであるリーダーが自らの経験による事故回避の秘訣を班員に伝授する事により、「考える運行の出来るセールスドライバー」を育成します。

事故は、COO・管理者・運行管理者・教育担当者や整備担当者と労組・乗務担当社員との共同正犯である事を受け止め、全社一丸で対応します。

事故を未然に防ぐ為、点呼・健康管理システム等のハード面の充実を図る他、運転適性診断や健康診断、ドライブレコーダーやデジタルタコグラフの結果による要注意者をリストアップし、添乗指導や各研修をグループバス会社と合同で行う事により、多角的な視点から「悪い癖」を修正していきます。とりわけハインリッヒの法則の通り、小さい事故の積み重ねが重大事故に繋がっている点から、小さい事故の段階で指導をより強化していき、日々業務中で発生するヒヤリハット情報の収集を促進、情報共有し、危険予知トレーニングで活用・実施する事で、道路交通に潜む危険を事前に予測し、適切に対応出来る訓練をする事で、交通事故を未然に防止します。総じて「優しい」が安全・安心に繋がる事を留意して、「5SAF」「優しい運転・優しい言葉・優しい接客」を実践する事で、お客様の安全・安心を担保します。

社員一人ひとりが「尊い人命を預かっている」という社会的使命を自覚し、「忠恕(真心からの思いやり)」の精神での運転&接客に努め、社会やお客様に愛され信頼される運輸企業となる様、全社員の力を結集し、安全&快適運行に努めます。

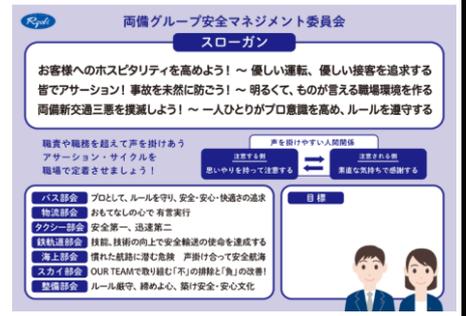
### 両備バスグループ安全指針

- 安全が最大の顧客サービス（「人命第一」&「安全最優先」）
- 厳正な点呼の実施（「国交省メールマガジン」&「個人重点目標」）
- 安全意識を高め、現場力のアップ（SSPブラッシュアップ運動）
- 安全確保重点カレンダーに従った事故防止（「人命第一」人身事故防止運動）

## ■2023年安全目標

### グループ安全スローガン

- ・お客様へのホスピタリティを高めよう！  
～ 優しい運転、易しい接客を追求する
- ・皆でアサーション！ 事故を未然に防ごう！  
～ 明るくて、ものが言える職場環境を作る
- ・両備新交通三悪を撲滅しよう！  
～ 一人ひとりがプロ意識を高め、ルールを遵守する



### バス部会スローガン

- ・プロとして、ルールを守り、安全・安心・快適さの追求

### 両備バスカンパニー安全目標

#### 『基本動作の遵守』

- 一. ひと呼吸、早くやるより確実に！
- 二. 安全に近道なし！
- 三. ひと手間かけるのがプロ！

### 事故削減心得6則

- ・車両の特性を知りましょう。
- ・運転技術を磨きましょう。
- ・健康状態を管理しましょう。
- ・道路交通法を守りましょう。
- ・接客サービスを徹底しましょう。
- ・国土交通省告示第1676号の各項目を厳守しましょう。

# 1. 輸送の安全に関する基本的な方針

## 1) 両備グループ安全宣言

社会正義の経営方針に則り、交通運輸各社は、「運輸安全マネジメント」に基づき、「安全」を最優先とし、「日本一安全な運輸企業」を目指して頑張ることを宣言します。



## 2) 活動方針

両備グループ安全マネジメント委員会を中心に、労使参加で、より現場に密着した効果的な活動を展開し、目標である「日本一安全な運輸企業」を目指します。

\* SSP-UP=S=safety&security(安全), S=service(サービス), P=productivity(生産性)

## 3) 安全方針

- ①安全運転を第一とし、法令順守し、基本に忠実に日々業務を遂行する事。
- ②車両の整備を的確に行い、始業点検を厳正に行う事。
- ③点呼において、日々安全への啓蒙、関心を高める事。
- ④教育を通じて安全意識を常に涵養する事。
- ⑤万が一重大事故の場合、人命尊重を第一に対処し、速やかに上司、関係機関への連絡をとる事。

# 2. 輸送の安全に関する目標(2023年度)

2022年度 責任事故 実績 14件に対し、50%以下達成を目標とする。

責任事故 7件以内

(責任事故・・・過失割合が重く、事故損害額が50,000円を超える事故)

# 3. 事故に関する統計

自動車事故 報告規則 第2条に 規定する事故	人身	0件	0.000件/10万キロ
	疾病による 運行中断	0件	0.000件/10万キロ
	車両故障	0件	0.000件/10万キロ
責任事故		14件	0.147件/10万キロ
総事故(含 被害事故)		43件	0.451件/10万キロ

(統計年度は4月～3月  
東備バス含む)

2022年度目標の10万キロ当たり責任事故件数0.05件以下(件数4件以下)は、2022年度実績0.147件(件数14件)のため目標未達成となりました。

## 4.輸送の安全に関する組織体制(別紙)

- ①両備グループ安全マネジメント委員会
- ②両備バス安全マネジメント委員会
- ③両備グループバスユニットSSPブラッシュアップ推進部
- ④両備グループ安全管理室

## 5.輸送の安全に関する重点施策

- ①運転行動の基本に戻り、日々の業務を安全に遂行します。
- ②蓄積した事故データと適性診断の結果に基づいた事故分析システムを活用して、事故を未然に防ぎます。
- ③指差確認喚呼と左折時一旦停止、右折時一旦停止又は最徐行で交差点事故を根絶します。
- ④点呼・健康管理システム「点呼・健康:ご安全に!」を活用し、健康起因事故の防止を図ります。
- ⑤頭部MRI・MRA検査と睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査を実施し、健康状態を管理します。
- ⑥日常点検・中間点検を確実に実施し、車両の不具合による事故の根絶を図ります。
- ⑦「点呼・健康:ご安全に!」と車両管理システムの連携により無車検運行を防ぎます。
- ⑧他山の石、ヒヤリハット情報&国交省メルマガの活用で、危険予測、予見運転意識を高めます。
- ⑨事故・苦情の撲滅を目指したSSPブラッシュアップ運動の展開で、現場力を高めます。
- ⑩教育・研修を通じ、安全意識を涵養し、飲酒&薬物&携帯電話・スマホにかかる指導を継続的に行います。
- ⑪大型自動車教習コースを使用した実技教育により、車両特性を身に付けます。
- ⑫情報の迅速・正確さの向上を図り、安全運転に活用します。
- ⑬事業所の巡視・監査を通じ、現場の諸問題を速やかに解決します。
- ⑭ヒヤリハット報告のドライブレコーダーを活用した危険予知トレーニングで事故の芽を摘みます。
- ⑮職場内対話の充実により、風通しの良い職場を構築し、不安全行動を防ぎます。
- ⑯全乗務担当社員のドライブレコーダーを定期的に確認し、結果に基づいた指導を実施します。
- ⑰AIによる「ドライブレコーダー分析システム」を活用し、個人用携帯電話・スマホルール違反を防ぎます。

## 6.事故・災害時の連絡報告体制(別紙)

## 7.輸送の安全に関する会議等の実施計画(別紙)

輸送の安全目標達成のため、昨年の事業の検証を行い、現状の問題点を抽出した上で、安全マネジメントの実効をあげる輸送の安全に関する計画を見直しします。

## 8.輸送の安全に関する教育・研修等の実施計画(別紙)

## 9.輸送の安全に関する研修・設備投資等の実施計画(別紙)

## 10.輸送の安全に関する内部監査

- ①安全統括管理者による内部監査(年1回)
- ②グループ安全マネジメント委員会監査役・SSPブラッシュアップ推進部による業務監査(随時)
- ③カンパニー長(副カンパニー長)による抜き打ち訪問(随時)
- ④内部監査委員による定例監査(整備・人事・財務)
- ⑤労使メンバー安全点検職場巡回(年12回)
- ⑥バス部会各社による相互監査(随時)

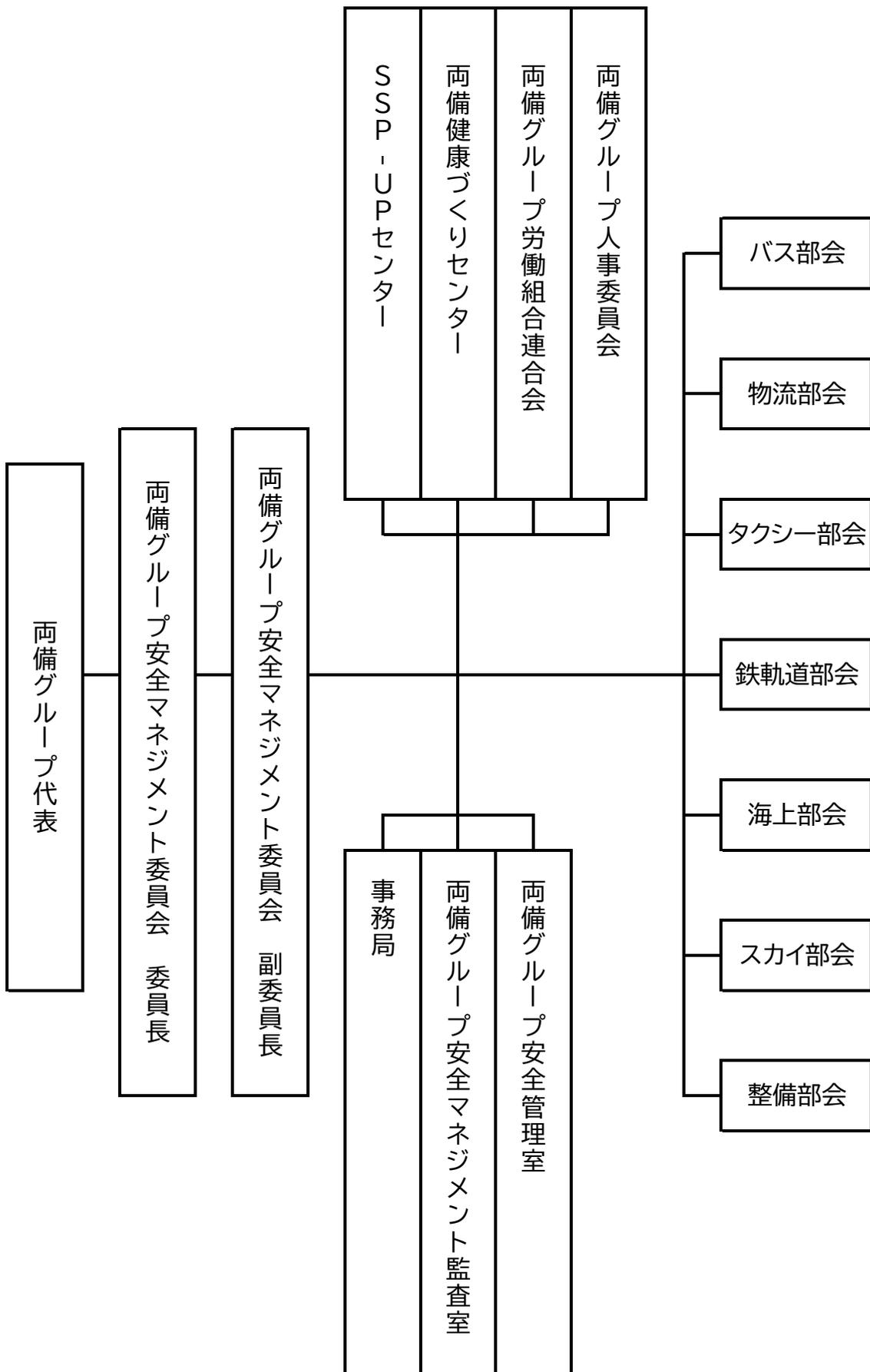
## 11.安全に関する資料、記録の保存

- ①輸送の安全に関する基本的な方針
- ②輸送の安全に関する重点施策
- ③事故・災害時の連絡報告体制
- ④輸送の安全(施策の見直し)に関する会議の議事録
- ⑤事故・災害等報告記録
- ⑥運輸局通達等発信情報記録
- ⑦輸送の安全に関する内部監査結果

## 12.経営トップによる見直し・改善指示

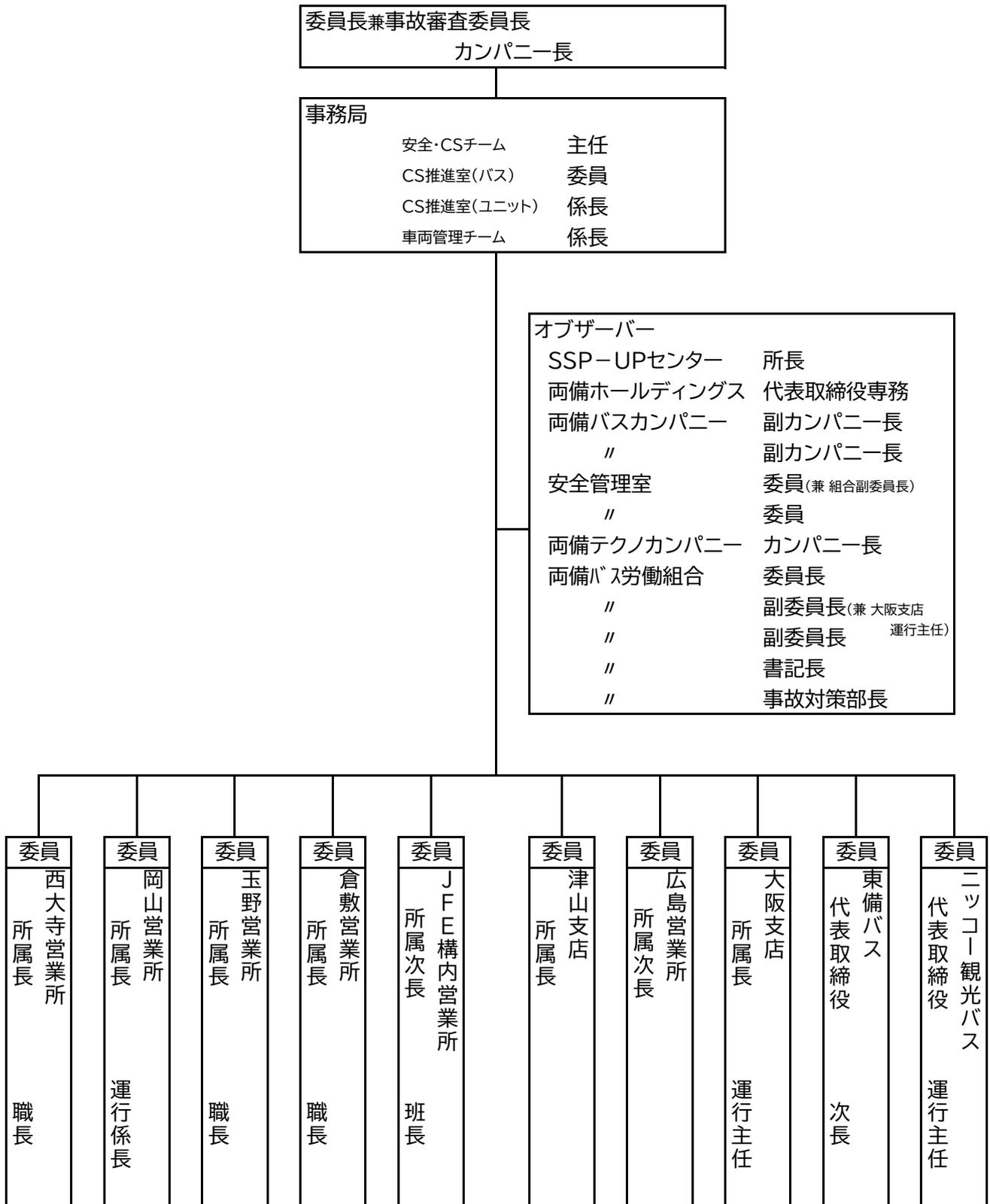
両備グループ安全マネジメント委員会を毎月開催し、経営トップの判断が必要な場合は、遅滞なく改善指示をします。

## ■両備グループ安全マネジメント委員会組織図

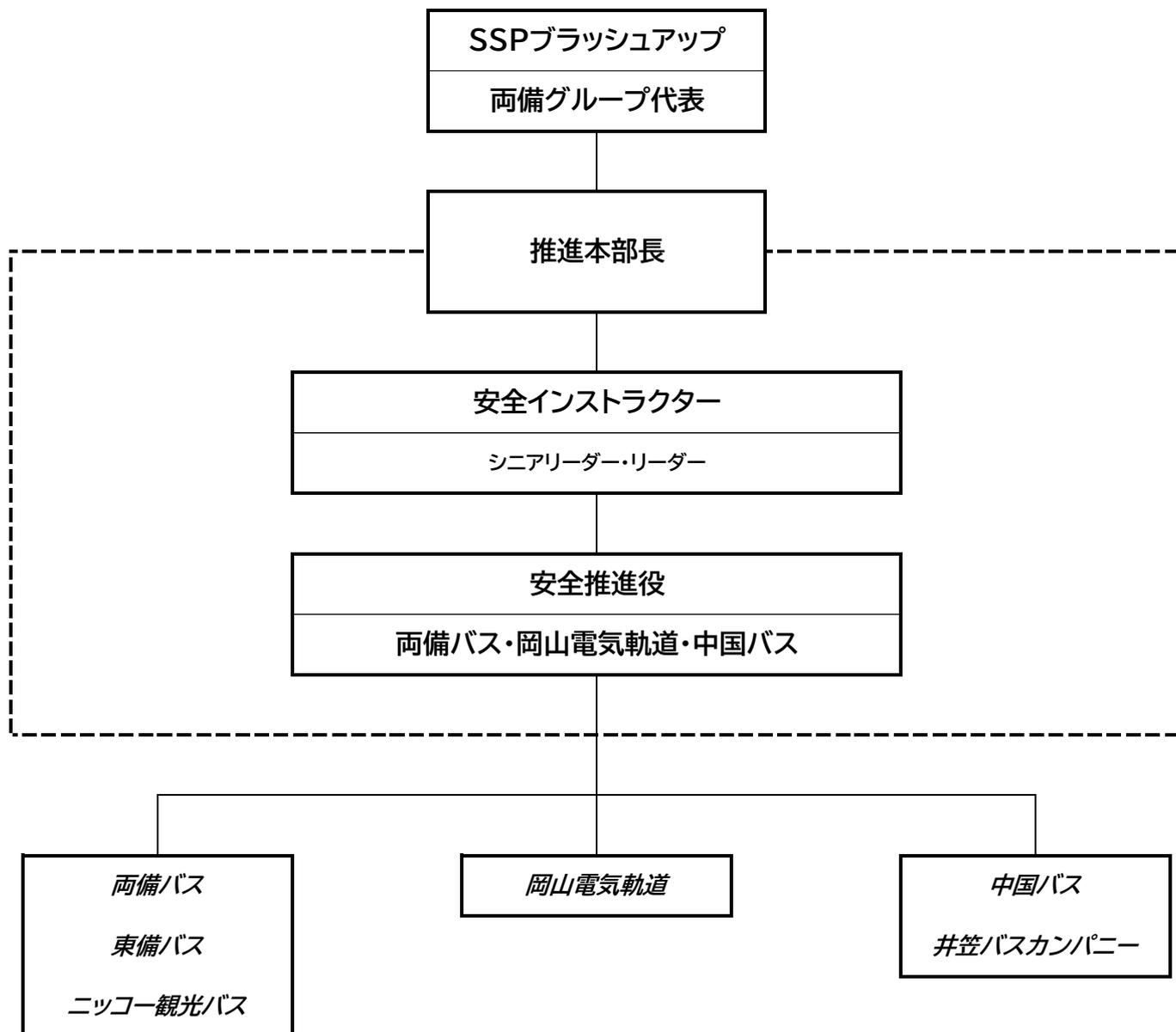


# ■両備バス安全マネジメント委員会組織図

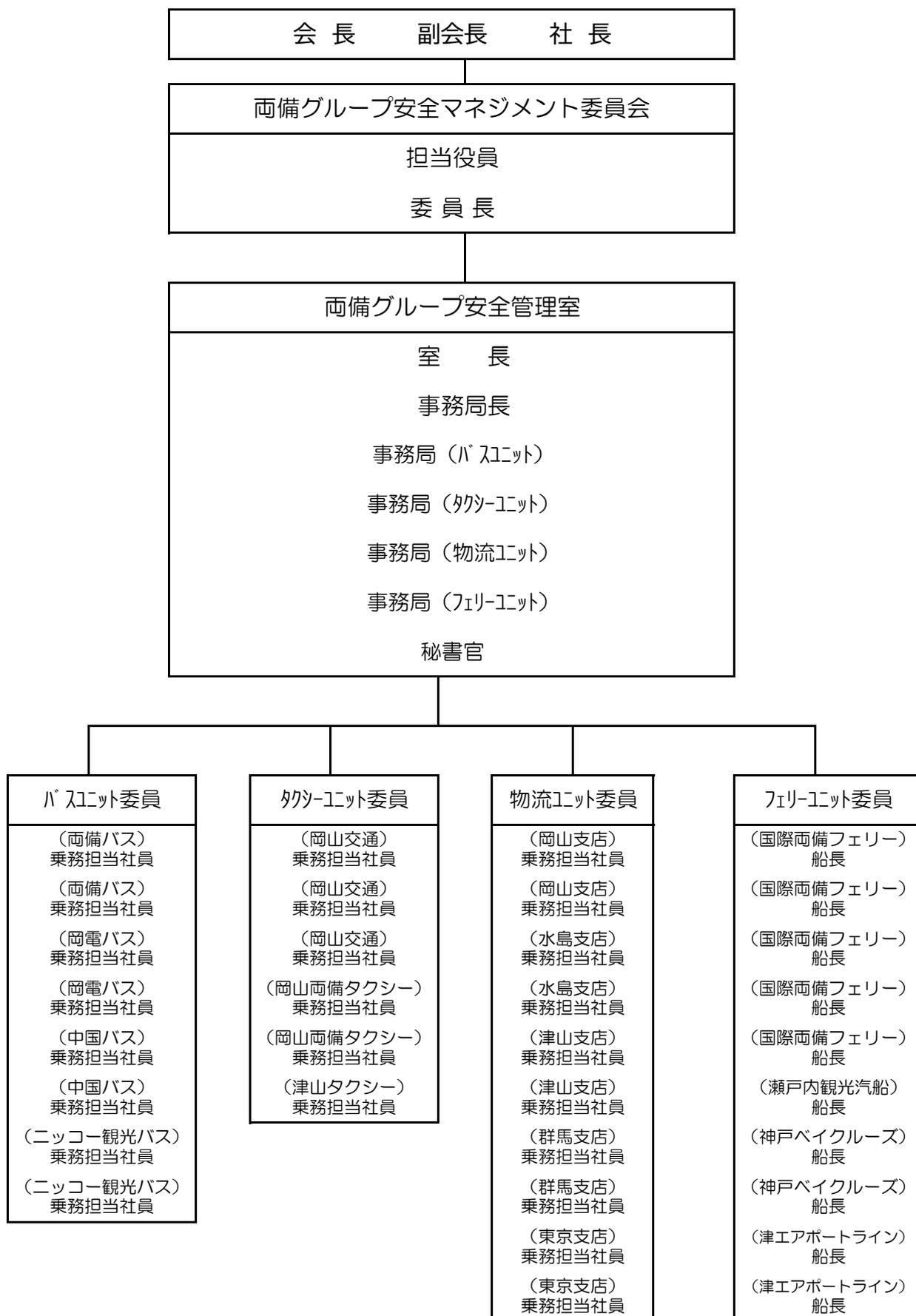
両備バスカンパニー  
東備バス



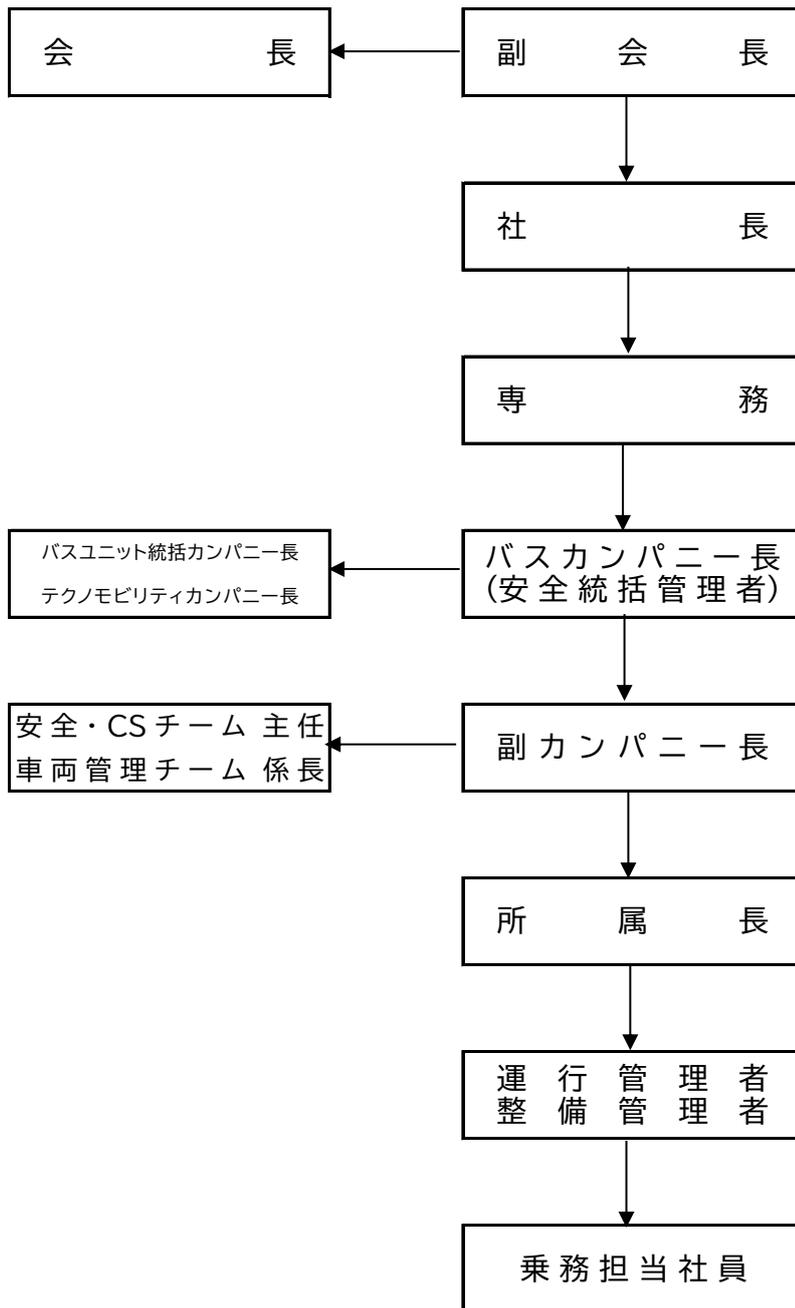
## ■両備グループバスユニットSSPブラッシュアップ推進部組織図



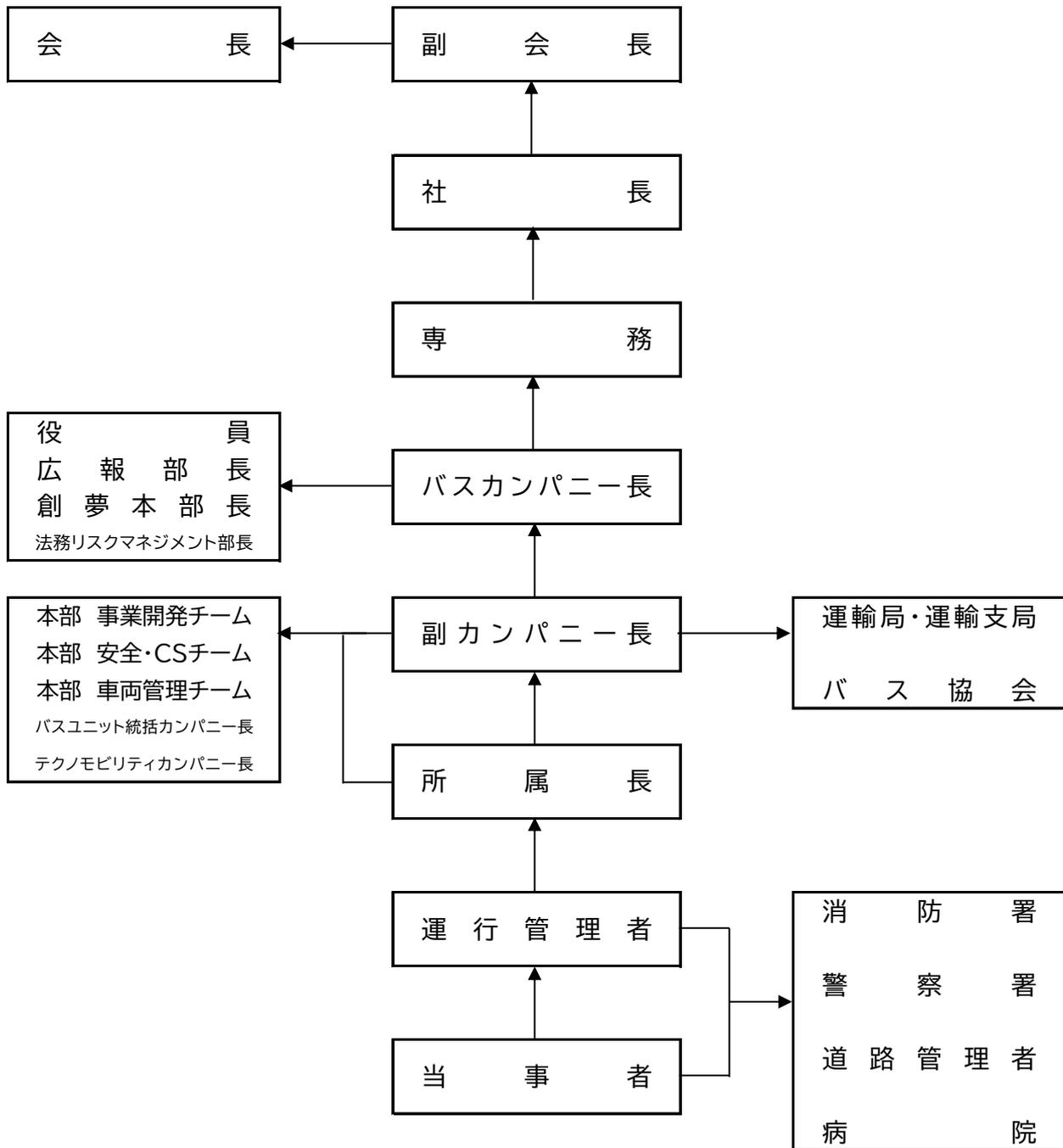
# ■両備グループ安全管理室組織図



# ■輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統図



# ■事故・災害時の連絡報告体制図



## ■輸送の安全に関する会議等の実施計画(2023年度)

両備バスカンパニー  
東備バス

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
両備グループ安全マネジメント委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
両備グループ安全マネジメント委員会バス部会	○		○		○		○		○		○	
両備バス安全マネジメント委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
無事故・無違反啓発の日(毎月6日)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SSP-UP安全総点検日(毎月10日)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
交通事故0の日(毎月19日)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
交差点注意日(毎月20日)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スマホを風化させない日(31日)		○		○	○		○		○	○		○
安全統括管理者内部監査										○	○	
両備グループ安全マネジメント委員会相互監査			○	○	○							
SSP-UP技能コンテスト						○						
両備グループ交通安全月間				○								
両備グループ交通安全日(7月31日)				○								
車検切れの日(5月22日、12月30日)		○							○			
スマホ事件を風化させない日(10月31日)							○					
スマホ依存度調査						○						
運転記録証明書取得											○	
春秋交通安全運動、年末年始安全総点検		○				○			○	○		
新学期の思いやり実践期間(4月1日～5日)	○											
飲酒調査個人面談						○						○
定期健康診断(夏・冬2回)					○						○	
産業医巡回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SSPブラッシュアップ委員による面談指導					○							○
中間点検・点呼立会い・添乗指導	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
団体無事故表彰(営業所)			○						○			
無事故表彰(個人)									○			

# 輸送の安全に関する教育・研修等の実施計画(2023年)

## ①両備バスカンパニー・東備バス

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	日数	担当	備考
新任乗務担当社員教育	随 時												集合14日間 配属先2ヵ月	本部 各営業所	(座学)本部(実技)教習コース、各営業所 (配属後)配属先営業所
運行管理者(運行管理補助者)教育	○	○				○	○	○	○	○		○	0.5日	本部	(座学)本部
新任運行主任教育					○							○	1日	本部	(座学)本部
新任職長・班長教育					○							○	0.5日	本部	(座学)本部
一般乗務担当社員教育 (ドラレコを使ったKYT・デジタコ・スマホ等)	○	○				○	○	○	○	○		○	1日	本部	(座学)本部
SAFETY教育(旧事故惹起者教育)		○		○		○		○		○		○	1日	本部	(座学)本部(実技)教習コース・郊外
貸切バスステップアップ教育				○				○					2日	本部	(座学)本部(実技)岡山営・山陽・岡山・米子・山陰道
高速バスステップアップ教育			○				○						3日	本部	(座学)本部(実技)教習コース・岡山営・高速道 東西各方面
雪上訓練		○											1日	本部	(実技)赤山・大山
運行管理者基礎講習							○					○	3日	NASVA	
運行管理者一般講習	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	1日	NASVA	対面方式 / 動画視聴方式
安全マネジメント講習会				○					○				0.5日	NASVA	リスク管理・ガイドライン・内部監査
適性診断活用研修(指導者)												○	0.5日	NASVA	
適性(適齢)診断	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		NASVA	適齢は65歳到達後1年以内 以降67歳 69歳時に実施
適性診断受診者個別指導	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		各営業所	
一般運転者教育(国交省告示1676号)	随 時													各営業所	バス運転者指導・監督要領、乗務担当者必携、国交省メルマガ等使用
運転実技教育			○					○					1泊2日	クレフィール湖東	

## ②両備グループ バス部門合同(両備HD・岡山電気軌道・中国バス・井笠バスカンパニー・東備バス・ニッコー観光バス)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	日数	場所	備考
新任乗務担当社員教育(座学)	随 時												3日	SSP-UPセンター	
新任乗務担当社員教育(技能教育)	随 時												1日	備前自動車 大型教習コース	
乗務担当社員フォローアップ教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1日	備前自動車 大型教習コース	
ベテラン(高齢)乗務担当社員教育 (55歳時対象)		○	○			○	○					○	1日	備前自動車 大型教習コース	
SAFETY教育(旧事故惹起者教育)		○		○		○		○		○		○	1日	SSP-UPセンター	
SAFTY教育(旧事故惹起者教育技能教育)	○		○		○		○		○		○		1日	備前自動車 大型教習コース	
乗務担当社員接客サービス教育			○		○		○		○			○	1日	中国バス 岡電バス 両備バス	
バス6社 営業所長・運行管理者研修								○					0.5日	SSP-UPセンター	
SSP-UP技能コンテスト									○				1日	岡山ももたろう 自動車学校 教習コース	

## ■輸送の安全に関する研修・設備投資(2022年度・実績)

項 目		合 計		備 考
教育に係る費用		2,401,750		
新任乗務担当社員教育	92,000	5	460,000	制服等を含む
SAFETY教育(旧事故惹起者教育)	4,300	8	34,400	社内
SSP-UP SAFETY教育(学科)	5,000	9	45,000	自社 教育センター
SSP-UP SAFETY教育(実技)	8,000	5	40,000	自社 教育センター
ベテラン運転者教育	8,000	9	72,000	55歳到達時
接客サービス教育	5,000	0	0	自社 教育センター
一般運転者教育	2,050	217	444,850	社内
雪上訓練	4,300	0	0	社内 / 積雪不良の為、中止
ステップアップ教育(貸切)	7,800	6	46,800	社内 / 貸切運転者登用時
ステップアップ教育(高速)	17,800	8	142,400	社内 / 高速運転者登用時
指導運転者教育	78,500	6	471,000	クレフィール湖東研修、適性診断活用研修含む
非乗務社員交通安全教育	2,000	94	188,000	社内
運行管理者(補助者)教育	2,000	84	168,000	社内
運行管理者一般講習	3,200	61	195,200	NASVA
運行管理者基礎講習	8,900	10	89,000	NASVA
安全マネジメント講習会	5,100	1	5,100	NASVA
車両など設備に係る費用		509,600		機器更新等
簡易型アルコールチェッカー	2,600	196	509,600	
車両購入(乗合・高速・貸切・特定 旅客用)		0	0	
健康管理に係る費用		83,490		SAS・MRI検査等
ASK飲酒運転防止インストラクター	19,500	0	0	
SAS検査	2,310	31	71,610	
MRI検査	20,000	0	0	
薬物検査	5,940	2	11,880	
その他、安全管理に要した費用		616,950		適性診断等
適性診断(一般)	2,400	101	242,400	NASVA
適性診断(初任)	4,800	22	105,600	NASVA
適性診断(適齢)	4,800	16	76,800	NASVA
運転記録証明書	630	305	192,150	
総 計		3,611,790		

## ■輸送の安全に関する研修・設備投資(2023年度・予算)

項 目		合 計		備 考
教育に係る費用		2,933,250		
新任乗務担当社員教育	92,000	10	920,000	制服等を含む
SAFETY教育(旧事故惹起者教育)	4,300	10	43,000	社内
SSP-UP SAFETY教育(学科)	5,000	10	50,000	自社 教育センター
SSP-UP SAFETY教育(実技)	8,000	10	80,000	自社 教育センター
ベテラン運転者教育	8,000	10	80,000	55歳到達時
接客サービス教育	5,000	10	50,000	自社 教育センター
一般運転者教育	2,050	215	440,750	社内
雪上訓練	4,300	10	43,000	社内
ステップアップ教育(貸切)	7,800	6	46,800	社内 / 貸切運転者登用時
ステップアップ教育(高速)	17,800	6	106,800	社内 / 高速運転者登用時
指導運転者教育	78,500	6	471,000	クレフィール湖東研修、適性診断活用研修含む
非乗務社員交通安全教育	2,000	100	200,000	社内
運行管理者(補助者)教育	2,000	108	216,000	社内
運行管理者一般講習	3,200	41	131,200	NASVA
運行管理者基礎講習	8,900	5	44,500	NASVA
安全マネジメント講習会	5,100	2	10,200	NASVA
車両など設備に係る費用		50,639,600		機器更新等
簡易型アルコールチェッカー	2,600	246	639,600	
車両購入(乗合・高速・貸切・特定 旅客用)	25,000,000	2	50,000,000	乗合バス2両
健康管理に係る費用		347,530		SAS・MRI検査等
ASK飲酒運転防止インストラクター	19,500	1	19,500	
SAS検査	2,310	73	168,630	
MRI検査	20,000	5	100,000	
薬物検査	5,940	10	59,400	
その他、安全管理に要した費用		533,550		適性診断等
適性診断(一般)	2,400	93	223,200	NASVA
適性診断(初任)	4,800	10	48,000	NASVA
適性診断(適齢)	4,800	12	57,600	NASVA
運転記録証明書	630	325	204,750	
総 計		54,453,930		

# ご安全に！

2023年6月1日

両備ホールディングス株式会社 バス部門・安全統括管理者  
兼執行役員・両備バスカンパニー長

**金重 雄志**

東備バス株式会社 安全統括管理者  
兼代表取締役

**河田 竜吾**



両備グループ